

第 26 回東北地区国立高等専門学校技術職員研修 参加報告

技術第 1 班 木村 英人

技術第 3 班 志村 良一郎

1. 開催の目的

東北地区の国立高等専門学校に勤務する技術職員に対して、その職務遂行に必要な一般知識及び新たな専門的知識、技術等を習得させることにより、技術職員としての資質の向上を図ることを目的とする。

2. 日程

2024 年 8 月 29 日（木）にオンラインで開催された。今年度の主幹校は仙台高専広瀬キャンパスである。当初は 29 日および 30 日の 2 日間での開催を予定していたが、台風 10 号の接近に伴う諸般の事情により対面形式からオンライン形式による 1 日間に短縮され開催された。

<1 日目> 8 月 29 日（木）

- 12:30- 受付（オンライン接続）
- 13:00- 開講式
- 13:20- 基調講演
「シミュレーション×レーダ×AI×ロボットによる災害不明者捜索」
仙台高専 園田 潤 教授
休憩（10 分）
- 14:20- 技術発表と討議 1
休憩（15 分）
- 15:35- 技術発表と討議 2
- 16:50- 閉講式

<2 日目> 8 月 30 日（金）（※中止）

当初予定されていた研修内容は以下のとおりである。（開催場所：名取市閑上海岸）

- ・園田潤教授による災害不明者捜索実演

「AI と自動走行ロボットを組み合わせた地中レーダによる津波災害不明者捜索」

- ・震災遺構仙台市立荒浜小学校の施設見学
- ・ディスカッション（仙台高専広瀬にて）

3. 研修会に参加して（各日程の詳細）

○基調講演

仙台高専の園田教授による基調講演が右記の題目で行われた。地中の遺物等をレーダと自走ロボットを用いて非接触で捜索する技術の説明と動画による実際の作業時の技術解説があった。震災という大きな出来事をきっかけとした科学技術の貢献と発展を感じることが出来た。

○技術発表

オンラインによる口頭発表が 9 件行われた。日々の研究報告や実験実習等の事例報告などが行われた。本校からは木村英人が「音響式体積計を用いたイワガキの体積測定」、志村良一郎が「分析装置の活用例と研究活動への参加」というタイトルで発表を行った。参加者からは様々な意見や質問が飛び交い、他高専の状況や姿勢を知ることの出来た有益な時間であった。

4. おわりに

急な日程変更等にも関わらず、スムーズな研修会を実施していただいた仙台高専広瀬キャンパスの皆様には感謝申し上げたい。また来年度は対面での開催が実現することを願いたい。